



令和7年6月26日(木)
しなやかに生きる子ども

4 学年 総合的な学習の時間
「POIPEACE」

「校区のポイ捨て状況って、かなりまずいかもしれない。」

総合的な学習の時間では、課題探究に対して自らよりよい納得解を求め続けようとする姿やその過程を教科の本質と捉えることを目指します。今回は、校区でポイ捨てされているゴミ問題に子どもたち自ら課題意識をもって臨めるよう教材化を図り、個で追究していく中で少しずつ明らかになってきたことを、他者とのつながりを通してより深め、新たな課題を見つけて探究し続けようとする姿を目指しました。本時では、前時までにそれぞれが追究してきたことを土台にしながら他者と比較し、多面的・多角的に捉えながら分析しようとする姿が見られ、学級でたどり着いた結論に対して、子どもたち自ら新たに「もっと調査したい!」という思いを生み出し、探究サイクルの持続化を図ることができました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とながら合い、「楽しい」を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切にした授業の在り方を探っていきます。

総合的な学習の時間 4年「POIPEACE」より

視点1

多様な個が生きる教材化

本単元では、自分たちが生活している校区の課題（ポイ捨て）をもとに、感情や実感を喚起できる教材構成にしました。

実態調査で明らかになったポイ捨てという課題に対し、その理由や原因について、個人で深く追究する時間を十分に確保しました。

「なぜゴミが捨てられるのだろうか？」といった問いについて、個人追究の時間を設けたことで、子どもたちはそれぞれが自分の考えを明確にもつことができました。また、全体交流では、子どもたちの間からは、「他のグループの調査結果はどうだったんだろう？」といった、個での分析を起点に、他者の視点に触れ、問い直す姿が見られました。

しかし、発表内容そのものよりも、発表の「まとめ方」や「見せ方」に注目している傾向が見られました。これは、多様な情報を整理し、要点を短時間で読み取ることに慣れていないことや、発表形式への関心が先行してしまったためと考えられます。



見方・考え方を働かせるための教師の立ち位置

視点2



自分の考えに深みをもたせるために、探究サイクルの持続化や他者との交流から、「自分ごと」として捉え、主体的に学び続けるために授業を行いました。

校区の住みやすさを調査する上で、教師は「なぜそう思うのか。」「どうしてそうしたいのか。」ということを問い続け、子どもが常に目的意識を見失わないよう意図的に関わり、見えていないことを明らかにするという目的のために、徐々に意欲を高めながら様々な見方・考え方を働かせている姿が見られました。

しかし、他者との交流を通してそれぞれが考えを深める姿は見られましたが、集団としての学びの深まりには課題が見られました。他者とのつながりから個で追究したことを深めていくことに留まらず、その先にある集団としての学びをしっかりと確保し、「もっと調査したい」から「もっと良くしていきたい」という意識へと変容していくことが期待できると考えられます。